



「50周年に寄せて思うこと」

顧問 小池 啓之

私は「上田支部」に所属しておりますが、当会の発足当時は『上田発明研究会』と称していて、確か昭和41年頃から偶に顔を出していて、正式に会員となったのは昭和43年頃だったかと思います。

入会の理由は、当会が昭和37年秋に9名で創設された頃は、会員に上田市在住の弁理士さんが居られましたが、ご高齢でお辞めになったゆえか、当時、偶々私が会社の出願を一手に引き受けていたことが、会員の一人に知れて、2代目会長の木藤巳波夫さんから「入会して会員に出願方法を指導して欲しい」と言われたからであります。

私は当時、かつて或る電線会社の一社員として勤めていて、その会社の出願は、東京の弁理士さんに頼んでいましたが、散々待たされた挙句、3ヶ月も経ってから出願原稿が送られて来る始末でした。しかも、その内容が私には大変不満でしたので、独学で出願法を学び、昭和41年に初めて会社の機械の一部改良について、実用新案として出願しましたら、44年に公告になったものですから、会社では従業員に発明を奨励し、次々と改善アイデアの出願を、私が一手に引き受けていました。よく特許庁へ先願調査に上京したものです。

当然ですが、私には言わば公的な肩書き名は何もなかったもので、当時「特許管理士会」が、民間資格だが昭和40年に第1回の「特許管理士試験」を実施されていたので、是非上田市に呼んで、私も受験して資格を取りたいと、木藤会長と商工会議所に働き掛け、昭和44年11月に「上田商工会議所」にて初めて開催され、幸い私も合格したのです。もう43年も昔のことです。

そう言えば、当時の月例会場は、上田市だけでしたから、長野市や松本市からも、数人のアイデアマンが毎月熱心にお見えになって居られました。

出願の指導とは、ご本人が御自分で出願書類を書けるように、お教えすることです。中にはご高齢で、今更難しい勉強をする気力がないからとて、仕方なく書いて差し上げたこともあります。40数年間ですから一体何件ご指導申上げたか分かりませんが、お若い人はお勤め先の中小企業の社長さんに褒められたとか、権利化できる前にローヤリティ3%で売却したという女性も居ましたが、女性といえは出願が目的で入会して来て、出願を終えると欠席するようになり、自然に退会する人が多いようで困って居ります。

要は、数多く権利を取ることが目的ではなく、商売として売り上げて稼ぎたいのですから、出願手続きそのものよりも売ることの方が遥かに難しいのが実状であります。すなわち、売れるアイデアを考える必要がありますね。

その中で懐かしい思い出がありますので、一つだけご披露しましょう。それは

大分昔のことで、既に故人となられた八百屋の外商をされていたお爺さんでしたが、「吊り具」と称したもので、和室の鴨居の上下に挟んで留めおき、そこへ衣紋掛けなり衣類を吊り下げる小道具でした。その構成は、上端は逆L字で鴨居の上辺に引掛けて、下端には衣類等を吊り下げるための小球状突起があり、この球状突起の少し上辺りに、上方に反り返った板バネがあって、鴨居の下辺に押し当てて、上記のL字体と共に鴨居を上下から挟んで固定するものでした。それが、「売れて売れて、作って呉れる所では間に合わないんです。」と、大変喜んで居られました。

何時でしたか、私が或る病院に入院することになって個室に入ったら、「吊り具」がその俵になっていました。多分、前に入院された方が、うっかりして置き忘れて退院されたのだらうと思いますが、それ程に一般人に売れたと思うと、大変微笑ましく嬉しかったですね。私の思い出の一つです。

少し脱線しましたが、当会は、昭和47年に『長野県発明研究会』と改称、上田市を「東北信支部」にして初代支部長に鈴木亨さんが就任し、新たに松本市に「中南信支部」を設立して初代支部長に宮田長治さんが就任したのです。

その後、「長野支部」が、そして「伊那分会・諏訪分会」と誕生し、今や全てが支部に成長して現代に至って居ります。普通は県庁所在地の市に1つあるだけなのが大部分ですから、全国でも珍しいのではないのでしょうか。

思い返して見ますと、その発足当時は、「上田発明研究会」を発展させる為には、行政や大きな団体に近づき、色々と利用させて貰うべきだと、積極的にテレビ出演をしたり、毎月のアイデア発表の「トップ賞」の賞状授与者名は、歴代上田市長名でしたし、上田市役所から賛助金まで頂戴していました。

例年、上田商工会議所にて、12月1日に行われている市民対象の無料相談の「何でも相談日」には、工業所有権に関する相談を、永年に亘って当会が担当していたものでした。

また、発明学会へは毎年泊り込みで伺い、必ず豊澤豊雄先生達にはお会いしたし、上田市における『15周年記念行事』では市長と商工会議所会頭と共に豊澤豊雄先生にもお出掛け頂き、『20周年記念行事』には、地元デパートにて他県の発明研究会にも出品を願って「発明展示会」を開催、地元「公会堂」で豊澤豊雄会長・笹沼喜美賀さん・上田市役所市民部長・上田商工会議所会頭等をお呼びして「講演会・祝賀会・慰労会」を開催したものでした。

最も積極的に計画したのは、「特許管理士試験」の開催でした。昭和62年11月に『長野県発明研究会25周年記念』の行事の一環として、発明学会の今野先生が立会で、初めて「特許管理士試験」49名を実施しましたが、その前には地元の中小企業に広く宣伝募集し、何回にも亘って受験者のために発明学会藤田忠局長や今野先生を始め、私達も担当して「予備講座」を開校したものです。その後、「特許管理士試験」は平成4年までに4回も実施しました。

それ故か、地元の公民館や企業など彼方此方から講習役の依頼があり、その都度、急ぎ資料を準備して出掛けて行ったものです。大変多忙でした。

これらのことは、「長野県発明研究会」の名を有名にしたことは事実でしょうが、果たして会員のためになったのかと考えると疑問でした。どうしても依頼先のことに対しての方が真剣にならざるを得なくなって、例会に対しては粗雑化して行ったのではないかと思います。

そして、尊敬していた豊澤先生による例の大事件が起きました。私は会員に「今回の豊澤先生は間違っている。三千元で発明が保護される筈がない。だまされないように！」と真剣に話したものです。結果、東京とは疎遠となりました。また、市役所からも「何でも相談」は、弁理士会から文句を言われて、担当から外されたり、何かと注文が出るようになったので、行政からの賛助金も辞退し、毎月の例会のトップ賞状名も、市長名から支部長名に変更する等、改めて行政などには接近せず、自分達だけが自由にアイデアを出し合うことを大切にするようにと、密かに方針変換をして来たのです。

勿論、豊澤先生の件で一時疎遠になったとは言え、東京都の『発明学会』や『特許管理士会』とはお互いに友好関係のもとご指導をお願いすべきであります。今回の記念行事に対しても、平井工学会々長から「全国大会」を併催し、我々の記念行事に花を添えるようにしてもよいと申し出を頂きましたが、当方の日程等の都合でお断りさせて頂きました。本当にありがたいことです。

お話が長くなりましたが、私が支部長になったのが昭和49年で、それから平成16年までの満29年間の長期間でした。勿論、任期は2年間の規定ですが、実際にはなかなか替わって貰えなかったのです。その内、木藤会長が急逝されて引き継いだ会長の兼任期間が2年間ありました。

今日、『50周年』を迎えました長野県には5つも支部があります。私は数年前に、会長は順番に持ち回りにすべきだと考え、誕生順で松本支部にお願いし、平成17年4月から小野会長に担当して頂きまして、無事に今回の記念式を迎える次第です。会長の任期は定めていませんが、次は、長野支部から会長をお願いすることになっております。

ところで、広い長野県ですから、今後も支部や分会が増えて行くことでしょう。そうであっても、信州人として纏って進んで行きましょう。

『50周年記念』に際し、私は多分、現最長期間の会員であろうと思い、勝手な思い出話を羅列しました。ご一読を感謝致します。有難う御座いました。